



与那原町史だより

与那原町教育委員会 生涯学習振興課 町史編纂係

与那原の

学校教育

「学び舎の移り変わり」



与那原に学校がやってきた！

与那原にも学校を…

明治33(1900)年、大里間切(現 与那原町・南城市大里)では小学校を平良村(図中①の西側)に移転・新築しよう、という話が持ち上がります。それに対し、与那原の人々は通学が不便になるため、学校を分離して与那原村に1つの小学校を新設してほしいという請願運動を起こしました。しかし、この請願運動の1年後、小学校が新設されたのは、現在大里北小学校がある嶺井村でした(図中④)。

※1…現在の与那原町域を表しています。
 ※2…大里間切時代の集落としての「与那原村」を指します。現在の浜田区・新島区・森下区・中島区・江口区と港区の一部で構成されています。

与那原分教場設置

請願運動から13年後、「第一大里尋常小学校与那原分教場」として、与那原に初めて学校が設置されました(図中⑤)。1～4年生までの児童が通っていましたが、教室数の都合から5、6年生は嶺井村にある本校へ通うことになりました。

昭和16(1941)年4月には、与那原分教場が独立して「与那原国民学校」となります。1、2年生の児童は親川と与



※町史日より文中の表記は人物名等をのぞき、基本的に漢字やカナは現代のものに統一し、数字は算用数字で表記しています。

原にあった与那原国民学校の分校に通
いました。

⑤第一大里尋常高等小学校与那原分教場

大正2(1913)年～昭和16(1941)年3月
現在の御殿山青少年広場辺りに設置。
昭和16(1941)年4月に与那原国民学校となる。



第一大里尋常高等小学校与那原分教場
大正6年2月20日撮影 【提供】安谷屋謙氏

廣 告

第一大里尋常高等小学校与那原分教場新築工事
一、此建坪百九拾九坪
此入札保証金各自請負は積金萬百分ノ五
以上
此契約保証金各自請負金百分ノ十以上
入札者ハ此年以上請負業ニ従事セシ者ニ
限ル
右工事競争入札ニ附テ請負欲ノ者ハ當役場
ニ就テ工率請負規則契約書案仕様書、圖面
及附屬書類ノ上明治四十五年六月十八日
午後四時迄ニ費業証附シ、保証金相添ヘ當
役場ヘ入札書送付ス可シ
但シ開札ハ即時トス 本契約ハ大里村
長官中助守担任ス
明治四十五年六月八日

島尻郡大里村役場

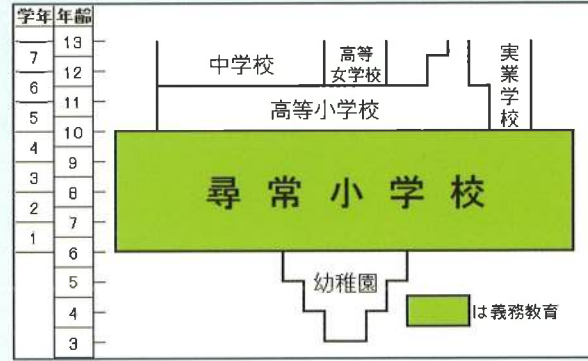
与那原分教場の新築工事広告
『琉球新報』明治45年6月13日1面記事より



豆ちしき

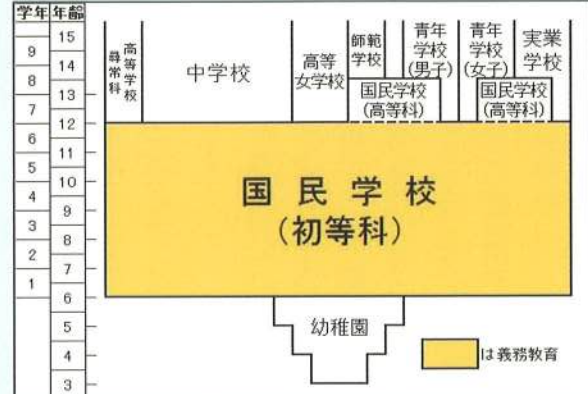
尋常小学校・国民学校ってなに？

尋常小学校(明治33年ごろ)



明治19(1886)年に公布された「小学校令」に基づき、尋常小学校(尋常科：4年)と高等小学校(高等科：4年)が設置されました。尋常小学校に高等科が併設された小学校を「尋常高等小学校」と言います。

国民学校(昭和16年ごろ)

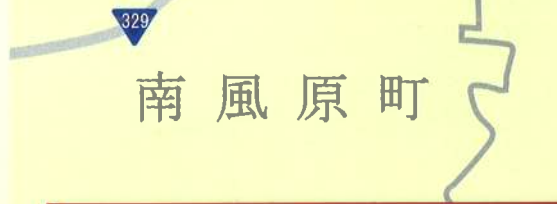


昭和16(1941)年に公布・施行された「国民学校令」によって、従来の「小学校」という名称が変わり、初等科6年、高等科2年で構成される「国民学校」となりました。

参考『学制百年史』文部省 1981年

④大里尋常小学校～(嶺井地区)

明治34(1901)年、大里尋常小学校の新校舎として設立。現在の大里北小学校の位置にあたる。翌年、第一大里尋常小学校に名称を変更。大正2(1913)年4月には高等科が併設され、第一大里尋常高等小学校となる。



③大南尋常小学校(島袋地区)

明治22(1889)年～明治31(1898)年
明治31年には大南高等小学校として発足。大里尋常小学校は大里間切役所に仮校舎を設置。

※この地図は、沖縄県知事の承認を得て、沖縄県数値地形図を複製したものである。(平28企情第1777号)

※地図内の情報は、『大里村立大里北小学校120周年記念誌 あまごい森』、『大里村史 通史編』、明治33(1900)年～大正2(1913)年の『琉球新報』を参考に、与那原分教場設置までの学校位置変遷図を追加したものである。

©Okinawa Prefecture

与那原国民学校の記憶

分教場から国民学校へ…

与那原国民学校は、昭和16(1941)年4月にそれまでの「分教場」から分離独立した学校で、これにあわせて新たに第二校舎が建築されました。

しかし、学び舎としては長くは続かず、昭和19(1944)年になると校舎が日本軍の施設として使用されるようになり、敷地内には兵舎も建築されました。校舎は昭和20(1945)年の沖縄戦で焼失したため、現在は残っていません。戦後は隣接する土地に与那原初等学校が設置され、現在の与那原小学校となっています。そして、与那原国民学校があった場所には現在、御殿山青少年広場と与那原町コミュニティセンターがあります。

今とは違う？ 朝礼の様子

与那原国民学校の朝礼は雨の日以外ほぼ毎朝校庭で行い、全校児童と先生が参加しました。朝礼で行われた「宮城遙拝」と「平敷軍曹の墓への遙拝」を紹介しましょう。

まず、全校児童は校庭で第一校舎に向かってクラスごとに整列し、先生たちは校舎の前で児童に向かって横一列に並びます。「右斜め向け斜め」の合図で一斉に皇居の方角(校舎の右側)を向き、深々とお辞儀をしました。

続いて「平敷軍曹の墓への遙拝」が行われました。平敷軍曹は、昭和17(1942)年にラングーンで戦死した与那原出身の航空兵です。宮城遙拝のあと、全校児童は回れ右をして平敷軍曹の墓がある方角(現在の与那原中央病院あたり)に向かって深々とお辞儀をしました。これが終わると第一校舎の方を向き、校長先生の挨拶が始まりました。

水上機

水面に降りることのできる海軍の飛行機がよく浜に来ていました。



砂浜

休み時間や放課後はカニやゴカイを捕まえる遊び場になりました。



防空壕

天井の無い堅穴の壕が校庭にいくつもあり、訓練で使われました。

御殿山

現在もある拝所です。当時は学校の敷地内で、木がたくさん生えていて、森のようでした。

二宮金次郎像



当時の児童

多くの子は裸足で登下校しました。裕福な子は靴がいましたが、靴を履いていることが恥ずかしくて、校内では裸足になったそうです。